

# コロナ下で問われる「非メイン行」の融資支援

## 必要な情報収集と条件変更対応のポイント



**融** 資先にとって自行庫が「非メイン行」だった場合、メイン行に主導権を握られているなどして主体的に支援できないことも多い。ただ、新型コロナウイルスで中小企業が苦境にあるいま、非メイン行もメイン行や下位行と歩調を合わせて支援を行うことが欠かせないだろう。本特集では非メイン行としてどんな融資支援を行っていくべきか——ポイントを解説する。

# Q&Aで改めて押さえる！ メイン行・非メイン行の 定義と支援のポイント



大内 修 (金融コンサルタント)

まずは非メイン行とは何か、企業支援面でメイン行とどう違うか見ていく。

### Q1

メイン行・非メイン行は  
どう決まるの？  
企業はなぜメイン行を作るの？



**A** メイン行とは、企業、金融機関それぞれが次のような「思い」で一致している場合を指す。

- ・企業からみると↓信頼関係に基づく安定した取引により、借入はもろろん経営課題等も最初に相談するなど、他の取引金融機関と比較して遠慮なく本音で話ができる。融資残高が最も大きく最も入金金の多い口座があり、経営者やその一族の個人取引、従業員取引で中核的に利用している「最も親密」な金融機関
- ・金融機関からみると↓日頃から定期的に接触して信頼関係を築き、財務数値だけでは知り得ない足元の状況や今後の見通し、事業の継続可能性など、多様な情報を幅広く収

集できる。晴れの時だけでなく曇りや雨の時も融資や本業支援を続け、経営者や従業員の個人取引も含めた自行庫・自店顧客基盤の根幹先として「決して失いたくない」企業そして、こうした関係になり取引金融機関は非メイン行である。

### メイン行なら 安定した取引を期待

Q2でみるようにメイン行といっても、親密度には濃淡がある。また金融機関が「メイン行に追随して効率的に取引したい」「融資残高を一定金額以下に抑えたい」といった理由で、あえて非メイン行を選ぶ場合もある。しかし、多くの金融機関が

メイン行を堅持したり、メイン化に注力したりするのは、法人・個人一体の取引が期待でき、自行庫取引基盤(＝収益基盤)が安定・成長する効果をもたらすからである。

企業側はどうだろうか。財務数値や担保・保証情報を重視する金融検査マニュアル導入(1999年)以来、金融機関の融資判断は画一化した。そのため、メイン行・非メイン行を分けず、借入の都度、金利選好して取引金融機関を決める企業もある。

しかし、経営環境が厳しさを増す中、金融機関との安定的な取引が重視されるようになり、複数行取引は維持しつつもメイン行・非メイン行を選別強化する傾向が強くなってきている。

**Answer** 企業が最も信頼しており金融機関も認識していればメイン行に